

おれんじ通信

36

知って支える認知症



管理栄養士の関わり①

施設に入所していた認知症のAさんは、糖尿病のため、主治医から摂取するエネルギーを制限するように指示されていました。施設の職員は指示を守り、ご飯を減らしたり、おやつを制限したりするなどの対処をしましたが、Aさんには意図がなかなか通じず、食事への不満から不穏な言動がみられるようになりました。

そのため栄養士は、主治医の指示に沿うように栄養量を計算し、ご飯を減らすのでは

なく、おかずの内容と量を変更し摂取エネルギーを調整しました。また、Aさんから甘さを求められたので、間食に飲むコーヒーに甘味料を使う提案をしました。

施設の職員と栄養士が相談しながら食事提供を続けたことで、Aさんに笑顔が戻り、穏やかに過ごされるようになりました。

◇ ◇

おれんじ通信への意見をお寄せください。

■地域包括ケア推進課 06
(4309) 3013、FAX06 (4309)
3814